

1. 実況上の着目点

- ① 低気圧が日本のはるか東を東北東進。この低気圧を波源とするうねりの影響で、北～西日本太平洋側と南西諸島では波が高くしけている所がある。また、北日本太平洋側を中心に、アリューシヤンの南から伝搬するうねりの影響も残っており、東北太平洋側では波高4m以上の観測が断続している。
- ② 高気圧が華北を東南東へ移動。日本付近に張り出している。
- ③ 東海道沖は相対的な下層暖気に対応する気圧の谷で、周辺では雨の降っている所がある。



主要じょう乱解説図

- ④ 500hPa 5280m付近で-39℃以下の寒気を伴うトラフが、中国東北区付近を東南東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、18日にかけて日本のはるか東を北上する。この低気圧を波源とするうねりの影響や、アリューシヤンの南から伝搬するうねりの影響で、波が高くなりしける所がある。西日本では16日は、南西諸島では17日にかけて、北～東日本では18日にかけて、高波に注意。
- ② 1項②の高気圧は16日は黄海へ移動し、17日朝までに不明瞭化する。また、16日夜までに、日本海で高気圧が顕在化して18日にかけて北～東日本付近に移動する。これらの高気圧に覆われるため、日本付近は晴れて昇温する所が多い。北～西日本の積雪の多い傾斜地では18日にかけて、なだれに注意。
- ③ 1項③の気圧の谷の周辺では、500hPa 5520m付近の浅いトラフや正渦度極大域の流入に対応して、16日夜までに伊豆諸島付近に低気圧が発生してゆっくり南下し、18日朝までに不明瞭化する。また、1項④のトラフは寒冷渦となって、17日は北海道付近を通過する。上空のトラフや寒冷渦、地上低気圧の影響で、曇りや雨となる所がある。また、低気圧周辺の下層暖湿気や上空寒気の影響で、伊豆諸島周辺や北海道地方では、大気の状態が不安定となる可能性があることに留意。
- ④ 18日は、500hPa 5640m付近の強風軸に対応する前線を伴った低気圧が、華中から対馬海峡付近を通過して西日本に進む。また、夜までに、500hPa 5340m付近のトラフに対応する低気圧が、沿海州沿岸の日本海に発生して北東へ進む。西日本の低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。西日本では18日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①のうねりは、数値予報モデルの予想より波高が高い傾向があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。

③ 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島・沖縄4、北海道・東海・四国・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。